

進路指導室へようこそ2

前橋女子高校進路指導部

令和6年度 MJ 進路通信 第28号

令和6年10月4日(金)発行

■駿台模試、どう受ける？

中間考査が終了しました。4日間お疲れさまでした。中間考査を境に1年間の後半戦に進みます(2年生にとっては3年間の折り返しでもあります)。この折り返し点での自分の立ち位置を再確認し、再加速して日々の学習に取り組んでほしい。

1・2年生は、この後大きな模試が2つあります。今回は12日に実施予定の駿台全国模試の意義と受け方について説明をします。

駿台全国模試は、大手予備校である駿台予備校が実施する模擬試験です。全国の大多数の公立高校生が受験する進研模試と違い、首都圏の有名私立高校や中高一貫校も参加するハイレベルな集団を母集団とする試験です。試験の難易度もそれなりに高く、進研模試ではまあまあとれるけど、駿台模試だと点が取れない、と感じた2・3年生も多いことと思います。ただ、これは裏を返せば駿台模試は「高得点を狙わなくていい」試験とも言えます。

右の表から分かるように、駿台模試では6割とれば最難関大学

偏差値	得点率	到達レベル
75	約70%	東大(理Ⅲ)
70	約60%	東京医科歯科
65~67	55~58%	東大(理Ⅲ以外)・旧帝大(医)
60~64	53~55%	京都・一橋・東工
57~59	48~52%	旧帝大・群馬(医)・山形(医)
50前後	40~42%	千葉・筑波・横国

レベル。半分で旧帝大レベルや国公立大医学部レベルに十分届きます。ですから、今回の駿台模試の目的は、全体的に難易度の高い問題にあたったときに、

「どの問題を捨て、どの問題にエネルギーを注ぐか」
「どのような時間配分と解答順序で問題を解くか」

という、戦略の立て方を練習することにあります。全ての問題に均等にエネルギーを注ぐ必要はないのです。4割捨てていいのです。大切なのは「自分が解くべき問題を見抜く眼力」を身につけることです。「難しい」ということをネガティブにとらえる必要は全くありません。今は解けそうな問題を頑張ればよいのです。

そしてこのことは、皆さんの学習に対する取り組みについての指針を与えてくれるものでもあります。日々の学習の際、つい「あれもこれも」と全てをやろうとして消化不良に陥ったことはないでしょうか。日々の学習こ

2024年度東京大受験者アンケートから 解答順番と解答時間について【文科類・数学】									
解答順番	標準			やや難		標準			やや難
	1(1)	1(2)	1(3)	2(1)	2(2)	3(1)	3(2)	3(3)	4
	図形と式、微分法、積分法、式と証明			指数・対数、整数		三角関数、高次方程式、式と証明			確率
1	52.6%			21.1%		5.3%			21.1%
2	10.5%	31.6%		26.3%	10.5%	15.8%			5.3%
3	5.3%	5.3%	21.1%	15.8%		36.8%	10.5%		5.3%
4	10.5%	5.3%		21.1%		15.8%	26.3%	10.5%	10.5%
5	5.3%	10.5%		5.3%	21.1%	5.3%	10.5%	21.1%	5.3%
6	10.5%	10.5%	5.3%	5.3%	10.5%	15.8%	10.5%	15.8%	
7	5.3%	15.8%	10.5%	5.3%	5.3%	5.3%	21.1%	5.3%	5.3%
8		5.3%	15.8%		15.8%		5.3%		10.5%
9			5.3%		10.5%			10.5%	21.1%
着手率	100.0%	84.2%	57.9%	100.0%	73.7%	100.0%	84.2%	73.7%	73.7%
平均解答時間	28.0分			19.9分		27.3分			16.5分
【40点未満】									
解答順番	1(1)	1(2)	1(3)	2(1)	2(2)	3(1)	3(2)	3(3)	4
	図形と式、微分法、積分法、式と証明			指数・対数、整数		三角関数、高次方程式、式と証明			確率
1	63.4%	0.7%	1.4%	24.8%		9.7%			4.1%
2	7.6%	39.3%		23.4%	15.2%	5.5%	6.2%		3.4%
3	13.1%	2.8%	24.8%	17.9%	7.6%	20.7%	2.8%	3.4%	5.5%
4	9.7%	6.9%	3.4%	22.8%	6.2%	24.8%	6.9%	2.1%	15.2%
5	2.1%	8.3%	2.1%	3.4%	16.6%	14.5%	10.3%	4.8%	12.4%
6	1.4%	2.8%	6.9%	3.4%	4.8%	17.9%	10.3%	3.4%	11.0%
7	2.8%	2.1%	2.8%	2.8%	4.8%	2.1%	19.3%	4.1%	3.4%
8		2.1%	1.4%		1.4%		1.4%	15.9%	5.5%
9			2.1%		3.4%			0.7%	13.1%
着手率	100.0%	64.8%	44.8%	98.6%	60.0%	95.2%	57.2%	34.5%	73.8%
平均解答時間	30.1分			23.1分		25.5分			14.2分

そ、「優先順位をつけて、先に取り組むことと後回しにすることを明確に区別する」ことが達成感を得られる効率的な学習だと思います。「複数のミッションの優先順位をつける」トレーニングは、駿台模試への向き合い方と全く同じなのです。(上の表は昨年度の東大入試アンケート。高得点者と低得点者では、「解答順序」「着手率」「問題ごとにかかる時間」に違いがあります)

■大学別オープン模試の受け方について

3年生は、「大学別オープン模試」が始まります。「大学別模試」は、その大学を志望する生徒を対象に行われ、出題範囲・レベルも実際の入試問題に寄せて作成されます。外部会場で実施されるものも多く、隣の席の人は同じ大学を目指す「ライバル」。校内で行う模試と比べて緊張感も本番レベルです。問題は、予備校が近年の入試問題を研究して作った「最新の予想問題」です。それを手に入れる(そして全力で取り組む経験をする)だけでも受ける価値はあるでしょう。都合がつけば母集団の大きい大手予備校のものは2つくらい受けたいところです。ただし結果(判定)に神経質になる必要はありません。現役生はこれから力を伸ばす時期。解けなくて当たり前なのです。本番仕様の問題で質の高い練習試合を行い、今後の学習戦略のための貴重な情報にすればよいのです。

どの学年も、この時期の模擬試験は「受け方・活かし方」がとても重要になります。模試は「現時点の自分の弱点を教えてくれる最良の先生」です。上手に使って、後半戦の飛躍のきっかけとしてほしいと思います。